

# JIS

## 鉄及び鋼－ひ素定量方法

JIS G 1225 : 2006

(JISF)

平成 18 年 1 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準部会 鉄鋼技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	木原 諄 二	日本大学
(委員)	大河内 春 乃	東京理科大学
	大橋 守	社団法人日本鉄鋼連盟
	小澤 宏 一	JFE スチール株式会社
	鍛地 楯 生	財団法人日本海事協会
	加藤 碩	ステンレス協会
	國府 勝 郎	首都大学東京
	近藤 良太郎	社団法人日本電機工業会
	佐久間 健 人	独立行政法人大学評価・学位授与機構
	中島 將 文	社団法人日本鉄道施設協会
	長瀬 忍	高圧ガス保安協会
	福永 規	住友金属工業株式会社
	本田 知 己	新日本製鐵株式会社
	山内 学	株式会社神戸製鋼所

---

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：昭和 29.3.29 改正：平成 18.1.20

官 報 公 示：平成 18.1.20

原 案 作 成 者：社団法人日本鉄鋼連盟

(〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 3-2-10 鉄鋼会館 TEL 03-3669-4826)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会 (部会長 二瓶 好正)

審議専門委員会：鉄鋼技術専門委員会 (委員長 木原 諄二)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 基準認証ユニット産業基盤標準化推進室 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

## まえがき

この規格は、工業標準化法第 14 条によって準用する第 12 条第 1 項の規定に基づき、社団法人日本鉄鋼連盟(JISF)から、工業標準原案を具して日本工業規格を改正すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本工業規格である。

これによって、**JIS G 1225:1992** は改正され、この規格に置き換えられる。

この規格の一部が、技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任をもたない。

**JIS G 1225** には、次に示す附属書がある。

附属書 1 (規定) よう化物抽出分離モリブドヒ酸青吸光光度法

附属書 2 (規定) 水酸化ベリリウム共沈・三水素化ヒ素気化分離ジエチルジチオカルバミン酸銀吸光光度法

附属書 3 (規定) 三塩化ヒ素蒸留分離モリブドヒ酸青吸光光度法

附属書 3A (参考) 国際共同実験についての追加情報

附属書 3B (参考) 精度データのグラフ表示

附属書 4 (参考) **JIS** と対応する国際規格との対比表

## 目 次

	ページ
序文.....	1
1. 適用範囲.....	1
2. 引用規格.....	1
3. 一般事項.....	1
4. 定量方法の区分.....	2
附属書 1 (規定) よう化物抽出分離モリブドヒ酸青吸光光度法.....	3
附属書 2 (規定) 水酸化ベリリウム共沈・三水素化ヒ素気化分離ジエチルジチオカルバミン酸銀吸光 光度法.....	6
附属書 3 (規定) 三塩化ヒ素蒸留分離モリブドヒ酸青吸光光度法.....	10
附属書 3A (参考) 国際共同実験についての追加情報.....	16
附属書 3B (参考) 精度データのグラフ表示.....	17
附属書 4 (参考) JIS と対応する国際規格との対比表.....	18
解 説.....	19

## 鉄及び鋼—ひ素定量方法

## Iron and steel—Methods for determination of arsenic content

**序文** この規格は、鉄及び鋼のひ素定量方法について、**JIS G 1225:1992** に規定された方法を、技術的内容を変更せずに様式だけを変更して**附属書 1** 及び**附属書 2** とし、2004 年に第 1 版として発行された **ISO 17058 Steel and iron—Determination of arsenic content—Spectrophotometric method** を翻訳し、技術的内容及び規格票の様式を変更することなく**附属書 3** として作成した日本工業規格である。この規格と **ISO 17058** との対比表を**附属書 4** に示す。

**1. 適用範囲** この規格は、鉄及び鋼中のひ素定量方法について規定する。

**備考** この規格の対応国際規格を、次に示す。

なお、対応の程度を表す記号は、**ISO/IEC Guide 21** に基づき、IDT（一致している）、MOD（修正している）、NEQ（同等でない）とする。

**ISO 17058:2004**, Steel and iron—Determination of arsenic content—Spectrophotometric method (MOD)

**2. 引用規格** 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格のうちで、発行年を付記してあるものは、記載の年の版だけがこの規格の規定を構成するものであって、その後の改正版・追補には適用しない。発効年を付記していない引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

**JIS G 0417** 鉄及び鋼—化学成分定量用試料の採取及び調製

**備考** **ISO 14284**, Steel and iron—Sampling and preparation of samples for the determination of chemical composition が、この規格と一致している。

**JIS G 1201** 鉄及び鋼—分析方法通則

**JIS K 8001** 試薬試験方法通則

**JIS K 8005** 容量分析用標準物質

**JIS Z 8402-6** 測定方法及び測定結果の精確さ（真度及び精度）—第 6 部：精確さに関する値の実用的な使い方

**ISO 385-1:1984**, Laboratory glassware—Burettes—Part 1:General requirements

**ISO 648:1977**, Laboratory glassware—One-mark pipettes

**ISO 1042:1998**, Laboratory glassware—One-mark volumetric flasks

**ISO 3696:1987**, Water for analytical laboratory use—Specification and test methods

**3. 一般事項** 定量方法に共通な一般事項は、**JIS G 1201** による。